

岐阜県岐阜市栗野方言の副助詞

山田 敏 弘

I. はじめに

1. 調査対象地：岐阜市は、岐阜県の県庁所在地で人口402,487人(99.4.1現在)の地方中核都市である。地理的には濃尾平野の北端に当たり、長良川が市中心部を貫流する。名古屋まで鉄道で30分で行けることから名古屋の通勤圏内の衛星都市としての機能も果たしている一方で周辺部から通学・通勤で通う人も多く、昼間人口が夜間人口を27,000人程度上回っている。

栗野地区は岐阜駅から車で北へ約25分行った岐阜市の北端に位置し、山県郡高富町に接する地域で昭和24年に同郡から岐阜市に併合された地域である。市の北部地域が開発される昭和50年代までは、小さな買い物は高富町の商店街へ、大きな買い物は市の中心部である柳ヶ瀬へ出ることが多かったが、現在はもっぱら市郊外の大型店へ買い物が集中している。現在は名古屋へ1時間程度という距離から住宅化が進んでいる。

2. 調査年月日：1999年5月2日
3. 話者：宮川玉枝さん（大正13年生まれ 女性 73歳）
4. 調査者・調査場所：山田敏弘・調査者宅
5. その他：① アクセントは下がり核の部分のみを「^h」で示す。
② 文例と対応しない部分については、文意がおおよそ変わらないことと当該形式を含めば可とした。

II. 調査結果

(1) 添加・例示・提題などを表すもの

A. 添加 《さえ・も》

1. 雨だけでなく風さえ吹いてきた。 ○ア^hメダケヤ ノーテ カゼマ^hデ フ^hイテキタ。（ダケヤナシニの形は使わない。）
2. 今年は豊作で、米ばかりか麦もよくとれた。 ○コトシワ ホーサクデ コメ^hバッカリヤノーテ ム^hギモ ヨーケ トレタ。（1に同じ）

B. 予想外の事実 《さえ・だけ》

3. 小学生でさえ簡単にワープロを使っている。 ①ショーガ^hクセーデモ カンタンニ ワープロ ツカトル。 ②ショーガ^hクセーヤッタッテ…。〈誘導〉
4. （宝くじが）当たると思っていなかっただけに嬉しい。 ○ヨ^hモヤ アタル^hトオモット^hラヘナンダデ ウレシーワ。

C. 条件 《さえ》

5. 暇さえあれば釣りに行っている。 ○ヒマサ^hエ アリヤ サカナ^hツリニ イッ

テゴザ^ル。

D. 例示 《でも・ほど・まで・など・やら・なり・なんて》

6. まあお茶でも飲んで下さい。 ○ナンニモ ナ^エケド マ^ー オチャダ^ケデ^モ ノンデクンセ^エ。
7. みやげにはこのまんじゅうなどどうかな。 ○ミヤゲニヤ コノ マンジュ^ーナ^ンカ モッテッテマオ^カ。
8. 思わず跳び上がるほど嬉しかった。 ○ワッチャ トビアガルホド ウレシカ^ッタ^デナモ。 (クライは使わない。)
9. まさかあなたにまで話が行くとは思わなかった。 ○マサ^カ オマハンニ^マデ ハナシ^ガ イクト^ワ オモット^ラヘナ^ンダ。
10. なぐるやら蹴るやらの乱暴をはたらいた。 ○ナグ^ッタリ ケ^ッタリノ ランボーオ ハタラ^イタ。 (ヤラ…ヤラは使わない。)
11. 私になり相談してくれればよかったのに。 ○ワッチニ^デモ ソーダンシテクレリヤ^ヨカ^ッタニ。
12. 野菜なんていくらでもできる。 ○ヤサイナ^ンカ オマハン タ^ネマキャ イックラデモ デキ^ルガナ。

一対の語の例示《だって》

13. しょうゆだってみそだって作っていたんだ。 ①ショーユモ ミ^ソモ ツクット^ッタンヤ。 ②ショーユヤッテ ミ^ソヤッタッテ ツクット^ッタンヤ。(ヤッテとヤッタッテはほぼ同意。ただし並列的に用いられる場合はこの順になる。)

択一《なり》

14. 私なり弟なりがお手伝いに行きます。 ○ワッチカ オトート^ガ テッタ^イニ^イク^ワ。

例外でない《とて》

15. 村長とて、そうするより仕方なかったんだらう。 ○ソ^ンチョーヤッタッテ ソースル^ヨリ ショーガネ^ーヤロ。 ○…ソースルヨ^シカ…<誘導> (ヨシカは使うがヨカは使わない。)

列挙《も》

16. 春らしくなって、梅も桜も一度に咲いた。 ○ハルラシナ^ッテ、ウメモ サクラモ イッシヨニ サエタ。

同類の暗示《も》

17. テレビもそろそろ買い替えよう。 ○テ^レビモ ワルナ^ッタデ ソ^ロソロ カエヨ^カナ。

やわらげ《でも》

18. まあお茶でも飲んで下さい。 ○マ^ー、オチャデ^モ ノンデキンサ^ルカ。(と

りたてには関係ないが、よほどのことがなければ家へ上げて茶を出すことはないため、このような表現を使う相手には敬語を使うとのこと。)

E. 包括《など》

19. 盆には子や孫などが帰ってくる。○オボ^ンニワ、コドモヤ マゴ^ンナンカガ
カエッテクルワ。

F. 提題《だって》

20. ゲートボールだってできるよ。○ゲートボ^{ール}ヤッタッテ デキ^ルワ。

話題にあげる《って》

21. 何だい、いいことって。○ナンヤ、エ^ーコトッテ。〈誘導〉

極端なものの提示《でも・くらい・すら・も》

22. そんなこと子供にでもできるよ。○ソ^ンナコト コドモニ^ヤッタッテ ヤ
レルガナ。(この場合、ヤッテは用いない。)

23. 食べることくらいは何とかしたい。○タベルコト グ^ライワ ドーゾコ^ーゾ
シタ^イワ。

24. 名前すらろくに覚えていない。○ナマエヤ^ッッタッテ ロクニ オボエトラ^ン
。(この場合、ヤッテは用いない。)

25. 弁当代に千円もかかった。○ベント^ーダイニ セ^ンエンモカカ^ッッタワ。〈誘
導〉

軽いものをあげる《さえ》

26. これさえあればもう大丈夫だ。①コレサエ ア^リヤ モー エ^ーヤロ。②
コンナケ ア^リヤ モー エ^ーヤロ。

(2) 分量・程度・基準などをあらわすもの

G. 分量・程度《ほど・くらい・ばかり》

27. 旅行で三日ほど家をあけた。①リョコーデ ミッカモ ルス^ニ シタワエ。

②リョコーデ ミッカバ^カ ルス^ニ シタワエ。〈誘導〉

28. 茶碗に半分くらいください。○チャワンニ ハンブンク^ラエ オクンセ^エ。

29. 子供にでもわかるくらいのやさしい本だ。①コドモニ^デモ ワカ^ルガナ。

②コドモニ^デモ ワカ^ルクライノ ヤサシー ホ^ンヤ。〈誘導〉(言わないこ
ともないという程度)

30. 一週間ばかり留守にするので頼むよ。○イッシューカンバ^カ ルス^ニ スル
デ タノ^ムワナ。

H. 基準《ほど》

31. 今年の寒さは去年ほどではない。①キョ^ンニワ ヌクトカ^ッッタ。コトシワ
サミ^ーナオ。②コトシノ サ^ムサワ キョ^ンニホドヤ ナ^イ。〈誘導〉

I. 理由《ばかり》

32. ちょっと油断したばかりにとんでもないことになった。 ○シラズニ オ¹ッタ
バック¹ニ、トンデモネ¹ーコトニ ナッテマッタ。

J. 「それにふさわしく」《だけ》

33. 苦労しただけあって人間ができています。 ○ク¹ローシタダケア¹ッテ、ニンゲン
ガ デキト¹ルワ。

形式名詞的用法《なんか》

34. 毎日孫の守りやなんかで忙しい。 ①モリバック¹デ タイヘンジャ。 ②マイニ
¹チ マゴノ モ¹リセンナランデ タイヘンジャ。(ナンカデという言い方はし
ない。)

「それこそ」《こそ》

35. それこそバケツをひっくりかえしたような大雨だ。 ○ソレコ¹ソ バケツオ
ヒックリカヤ¹ータヨーナ オーアメガ フ¹ッタナモ。

「～ばかりか」《ばかり》

36. 父ばかりか母もスポーツ好きだ。 ①オト¹ツツァンモ オッカ¹ハンモ イモ¹ガ
スキヤッタ。②オト¹ツツァンバック¹ヤノ¹ーテ オッカ¹ハンモ イモ¹ガ ス
キヤッタ。〈誘導〉(スポーツは言いにくいので芋にした。)

K. 今にも行われる《ばかり》

37. もう食べるばかりにしてある。 ①モー タベルバック¹カリニ シタル。 ②モー
ー タベルバック¹ニ シタル。〈誘導〉

動作の完了直後《ばかり》

38. 今、仕事から帰ったばかりだ。 ○イ¹マ シゴトカラ カ¹エットンサッタバック¹
カリヤ。(バック¹ヤも言うがバック¹カリの方がふつうに使う。)

基準《まで》

39. 駅までもうちょっとだ。 ○エ¹キマデ モーチョ¹ットヤガナ。

L. 等量の反復《ずつ》

40. 一人ずつ呼んで話をした。 ○ヒトリヒト¹リ ヨバレテ ハナシ¹シタ。(ズ
ツも「二人ずつ」などとして使うが、このようにヒトリヒトリという語句がある
場合、そちらが多い。41を参照。)

M. 等量の配分《ずつ》

41. 一人に二個ずつみかんをやる。 ○ヒト¹リニ フタツズ¹ツ ミ¹カンヤル。

(3) 限定・限界などをあらわすもの

N. 限定《しか・だけ・ばかり・きり》

42. 酒はたまにしか飲まない、 ○サケワ タマニ¹シカ ノ¹マヘンヨ。

43. 今朝は寝坊をしてパンだけ食べて来た。 ○ケ¹サワ ネボ¹ーシタデ、パ¹ンダケ
タベテキタ。〈誘導〉
44. そんなに勉強ばかりしていると体に毒だよ。 ○ソ¹ンナ ベンキョーバッカ シ
ト¹ルト アカ¹ヘンヨ。
45. うちの田が残っているきりで、よそは全部終わった。《田植えのこと》 ○ワッ
チントコノ タンボ¹バッカ マンダ ノコツトルケド、ヨソ¹ワ モー ミンナ
ス¹ンデマッタ。

O. 強調《しか・こそ》

46. もうこれだけしかないよ。 ①モ¹ー コンナケ¹ヤヨ。 ②コンナケ¹シカ ア¹ラ
ヘンヨ。
47. 今年こそいい年にしたい。 ○コトシワ エー トシデ スゴイタイナモ。(ふ
つうにはコソを使わない。)

P. 限界《だけ・まで》

48. これだけ言っても分からないのか！ ○コンナケ イッテ¹モ マ¹ダ ワカラン
カ。
49. 2千円くらいまでなら何とかなる。 ① ニセ¹ンエンシカ ナエケド コンナケ
ア¹リヤ ナ¹ントカ ナ¹ルヤロー。 ②ニセンエン ク¹ライ マデ ナラ ナ
ントカ ナ¹ルワ。〈誘導〉 (②はやや自然さを欠く。)

(4) 陳述的なもの

Q. 「～ば～だけ」《だけ》

50. 肥料をやればやるだけよく育つ。 ○ヒ¹リョー ヤリヤ ヤッタダケ ヨ¹ー
ソダ¹ツ。

「假定形・ば・こそ」《こそ》

51. 心配すればこそ言うんだ。 ○オマハンノコト シンパイシト¹ルデ イット¹ル
ンヤゾ。

「こそ・假定形」《こそ》

52. 彼は文句こそ言え、人の言うことなど聞かない。 ○アノ¹ジンワ モ¹ンクバツ
カデ、ヒトノ ユ¹コトナンカ チット¹モ キキサラン。(キキンサランと
言ったときよりもキキサランはきつい言い方。キキサランは敬語の形態が入って
いるが、子どもにも使う。)

53. 「～でこそあれ《コサレなども》」という書い方はありますか。 なし

「未然形・ば・こそ」《こそ》

54. 押しても引いても動かばこそ。 当該表現なし。

「～こそ。」《こそ》

55. 失礼なことを言わないでこそ。 当該表現なし。

「～こそ～が」《こそ》

56. 今でこそ家から出ないが、昔はよく出歩いていた。 ○イマデコソ アンマリ
ウチカラ デンケド、ムカシワ ヨー デトッッタヨ。

「～ば～ほど」《ほど》

57. 働けば働くほどもうかる。 ○ハタラキヤ ハタラクホド モーカルヨ。(ハタ
ライタブンという言い方はしない。)

R. 打ち消しとの呼応《まで》

58. 村長に聞くまでもないことだ。 ○ソナコト ソンチヨーニ キクマデモ
ナエーコッチャ。

否定との呼応(それさえもない)《も》

59. 朝から忙しくて昼飯も食えない。 ○アサカラ イソガシテ コビルモ タベ
チョレイン。(ヒルゴハンは2時頃食べるもの。文意には10時頃食べるコビルが合
う。)

否定的取り上げ《など》

60. こんなものなどいくらでもあるよ。 ○コンナモンヤッタラ イックラデモ ア
ルワ。

全面否定《だって》

61. 誰だってそんなことを言われたら怒るよ。 ①ダレデモ ソナコト イワレ
ヤ オコルワ。 ②ダレヤッテ ソナコト イワレヤ オコルワ。

S. 次の動作が不可能《きり》

62. 10年前に故郷を離れたきり、一度も帰っていない。 ○ジューネンマエ デテ
ッッタナリデ、チョットモ カエッテ ゴザラン。

(5) モダリティー的なもの

T. 不確かな気持ち《やら・か》

63. いつのまにやら眠ってしまった。 ○イツノマニカ ネットマッタ。

64. 何のことか分からない。 ○ナンノコッチャ ワカランワ。

推定《か》

65. 後で遊びに行くかもしれない。 ○アトデ アソビニ イクカモシレン。

どちらか分からない《やら》

66. 来るのやら来ないのやらよく分からない。 ○クルカ コンカ ヨー ワカラ
ン。

はっきり書わない《やら》

67. どこやらへ引っ越したそうだ。 ○ドコヤラエ イカシタゲナヨ。

U. 非難《たら・てば》

68. お父さんたら今日も遅いのね。 当該表現なし
69. お父さんてば、子供のようなことを言って。 ○ナニ、コドモミ⁷タエナコト
イットリヤ⁷ースカ。

III. 総括（まとめ）

ここでは、いわゆる全国共通語（以下「共通語」と呼ぶ）との差異という観点からまとめておく。なお、整理の都合上、方言形式（カタカナ表記）で項目として立てたものと共通語形式（「」付きのひらがな表記）で示したものがあるため、多少の重複があることを断っておく。

(1) 共通語とほぼその意味・機能が同一であるもの

① ダケ（用例 4, 33, 43, 48, 50）

限定という意味を持つダケは、共通語と基本的に意味・機能ともに同一であると考えられる。(43)パンダダケ タベテキタ、(50)(肥料を)ヤリヤ ヤッタダケ ヨーソダツ

ただし指示代名詞の「これ」「それ」「あれ」「どれ」に続く場合にのみ、ダケはナケになる。(48)コンナケ イッテモ マダ ワカランカ。ただし、(4)のように「～だけに」のような用法は当該方言になく、理由としてデで表されるのがふつうである。

② バッカリ、バッカ(用例37, 38, 44, 45)

主にアスペクトに関して限定的な意味を持つ共通語のバカリに対応するのがバッカリもしくはバッカである。(37)モー タベル バッカ(リ) ニシタル、(38)イマシゴトカラカエッタ バッカ(リ) ヤ、(44)ソナナ ベンキョーバッカ シトルト アカヘンヨ、(45)ワッチントコノ タンボバッカ マンダ ノコトル…

(37)(38)のように助詞などが後接する場合にはバッカリの方が自然であり、後接しない(44)(45)などはバッカがふつうである。

なお、累加を表す「AばかりかBも」の場合、ふつうは「AモBモ」を用い、「A バッカヤノーテBモ」も用いられるがやや自然さを欠く。

③ ガ

いわゆる総記のガと呼ばれるものについては今回調査項目になかったが、限定的な意味で共通語と同様に用いられる。○アンタヤノーテ ワッチガ イクンヤ。なお、このような総記の格助詞の用法に関して、山県郡で「その本をおくれ」という場合にヲ格の代わりにガ格が使われるという報告もあるが、今回は観察されなかった。

④ シカ（用例42, 46）

否定と呼応して限定を表すシカに関しても共通語と差がない。(42)サケワ タマニシカ ノマヘンヨ、(46)モー コンナケシカ アラヘンヨ。

⑤ マデ（用例 9, 58）

極限的な例を提示して意外さを表すマデの用法についても、共通語と大きな相異は見られない。(9) マサカ オマハンマデ ハナシガ イクトワ オモットラヘナンダ、(58) ソンナコト ソンチョーニ キクマデ ナエーコッチャ。格助詞のマデ(39)も同様。

⑥ モ (用例 2, 13, 16, 17, 25, 59)

モには、同類を表す用法、意外を表す用法、やわらげを表す用法の3用法があると考えられるが、そのいずれにおいても共通語と同じ用法を持つ。

同類を表すモに関しては、(2)コメダケヤ ノーテムギモ ヨーケ トレタの他、「Aモ Bモ」の形式を取る、(16)ウメモ サクラモ イッシュニ サエタや、同義の(13)ショーユモ ミソモ ツクットタンヤの場合も同様である。

意外を表す用法も、数量詞に後接して量に対する意外さを表す(25)センエンモ カカッタも、否定と呼応して想起しやすいものまでを否定する(59)ヒルメシモ タベチョレンも、共通語と同様である。

やわらげに関しては(17)のテレビモ ソロソロ カエヨカナがあるが、これも同様である。

(2) 共通語では用いられるが当該方言では(部分的に)用いられないもの

主に文体的な理由から今回方言の用法として観察されなかったものに以下のものがある。この場合、共通語でも同様の意味・機能を持ち、より文体として口語的な表現形式が存在することに注意されたい。

① やら (～やら～やら) (用例10, 63, 64, 67)

一般に並立助詞とされる「AやらBやら」については、共通語でも述語に続く場合「～たり～たり」で置き換え可能なように、当該方言においても通常(10)ナグッタリケッタリ ランポーオハタライタのようにタリを用いる。

とりたてとしての「やら」としては、不定の代名詞に後接する(67)のドコセラヘイカシタヨーの場合に用いられる他、(64)ナンノコッチャ ワカランワに痕跡として残るが、「いつのまにやら」のように節相当に後接する場合にはヤラは用いられず、(63)イツノマニカ ネテマッタのようにカで示される。

② (に)なり (用例11)

他のより適当な例を暗示しながら一例として提示する「(に)なり」は、当該方言ではニデモを用いて表される。(11)ワッチニデモ ソーダンシテクレリャ ヨカッタニ。

③ ～なり～なり (用例14)

②のとりたてとしての「なり」と連続する並立助詞の「AなりBなり」についても当該方言では用いられず、「AカB」を用いる。(14)ワッチカ オトートガ テッテイニイクワ。

④ なんて・など (用例 7, 12, 19, 34, 60)

取るに足りないものを表す「なんて」や「など」も当該方言では用いられず、(12)ヤサイナンカ オマハン タネマキャ ヨーケ デキルガナにおけるナンカ((7)(19)も同様)や、(60)コンナモン ヤッタラ イックラデモ アルワのようにヤッタラを用いる。

⑤ とて (用例15)

条件的に「その立場であっても」を表す「とて」も当該方言ではより広い意味を持つヤッタッテで表され、「とて」自身は用いられない。(15)ソynchョーヤッタッテ ソースルヨリ ショーガネーヤロ。

⑥ こそ (用例35, 47, 51, 52, 54, 55, 56)

主張や意志表明が特にその理由によってであることを表す「こそ」は当該方言では用いられにくい。代わりに(51)シンパイシトルデ イットルンヤゾや(52)モンクバッカデ ヒトノ ユーコトナンカ チットモ キキサランのように通常の原因を表すデもしくはその強調のバッカデを用いるのがふつうである。また、(54)や(55)のように表現自体を欠くものもある。ただし(56)のイマデコソや(35)ソレコソなど固定化した表現に限っては用いられる。

⑦ きり (用例45)

限定を表す「きり」も当該表現ではバッカなどで通常表現される。(45)ワッチント コノ タンボバッカ マンダ ノコットル。

⑧ たら・てば (用例68, 69)

提題の一種で非難など特定のモダリティに呼応する「たら」「てば」については当該方言では用いられず、代替表現すら想定しにくい。

(3) 当該方言と共通語では形式のカバーする意味・機能の範囲が異なるもの

特に極限的な例を示すととりたては、共通語においては細分化が進んでいるが当該方言においては同一の形式で表されることがある。ここではヤッタッテと「だって」「さえ」「でも」「とて」「すら」についてと、クライ、バカ、ホドの分布を考える。

① ヤッタッテ・(ヤッテ) (用例3, 5, 6, 13, 15, 20, 22, 24, 26, 29)

ヤッタッテは基本的には共通語の「だって」に相当し、あるカテゴリーに入りにくい極限的な例までも含んで事柄が成り立つことを表す表現形式である。(20)ゲートボールヤッタッテ ヤレルヨ。

同様な意味として(3)ショウガクセイヤッタッテ ワープロ ツカットルの場合、(15)ソynchョーヤッタッテ ソースルヨリ ショウガネーヤロの場合、(22)ソナコト コドモニヤッタッテ ヤレルガナ、更には(24)ナマエヤッタッテ ロクニ オボエトランの場合、文体的に用いにくい「さえ」「とて」「(に)でも」「すら」の代わりに意外な極限例を挙げる形式として用いられる。

ただし、(5)や(26)の従属節の「さえ」の用法と勧めのモダリティを文末に取る例示の「でも」の用法はヤッタッテになく、当該方言でも(5)ヒマサエ アリヤ サカナツリ ニイトルのようにサエや、(6)オチャダケデモ ノンデクンセエのようにダケデモを用いて表す。また(29)コドモニデモ ワカルガナもデモがふつう。

並立助詞に複数例を提示する(13)ショーユヤッタッテ ミソヤッタッテ ツクットツタンヤの場合には、前のヤッタッテはヤッテと短くされることもある。

- ② クライ(クラエ)・ホド・バカ(バッカ、バッカリ) (用例 8, 23, 27, 28, 30, 31, 32, 36, 37, 38, 44, 49, 57)

クライ(クラエ)、ホド、バカ(バッカ、バッカリ)の3形式については共通語と同じ場合もあるが、総じて異なる分布が観察される。

まず共通語と同じ用法について見ておく。

(23)タベルコトクライワ ドーゾコーゾ シタイワ

(49)ニセンエンクライ マデナラ ナントカ ナルワ

(31)コトシノ サムサワ キョネンホドヤナイ

(57)ハタラキャ ハタラクホド モーカルヨ

(32)ユダンシテマッタバッカニ トンデモネーコトニ ナッテマッタ

(37)モー タベル {バッカリ/バッカ} ニシタル (バッカリがふつう)

(38)イマシゴトカラカエッタ {バッカリヤ/バッカヤ} (バッカリヤがふつう)

(44)ソンナ ベンキョーバッカ シトルト アカヘンヨ (バッカが自然)

このように共通語と同じ用法は、すべてクライ、ホド、バッカが相互に置換不可能な場合である。

分量や程度を表すものはバカ(バッカは不可)とクラエが可能であるが、共通語では用いられるホドは当該方言においては用いられない。

(27)リョコーデ ミッカ {バカ/??ホド/クラエ} ルスニシタワエ

(28)チャワンニ ハンプン {バカ/??ホド/クラエ} オクンセエ

(30)イッシューカン {バカ/??ホド/クラエ} ルスニスルデ タノムナ

累加の意味を持つ「～ばかりか」においてはバッカヤノーテとなる。

(36)オトツツァンバッカヤノーテ オッカハンモ イモガスキヤッタ

また、共通語で「ほど」と「くらい」の両方が用いられる比喩的な程度を表す用法においても、クライは用いられないという差異を呈する。

(8)トビアガル {ホド / *クライ} ウレシカッタデナモ

以上、岐阜市粟野の副助詞(とりたて)について簡単に考察を加えた。

(やまだ としひろ 富山国際大学人文学部)